

研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用

期間：2016年～

[所員] 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 関口博巨 安室 知

[客員研究員] 重村 力

[協力] 三笠友洋（西日本工業大学）

2018年度 大島漁協文庫資料整理プロジェクトの動向

関口 博巨

気仙沼大島の漁業協同組合は、1903年に大島村漁業組合として設立、2006年に宮城県漁業協同組合気仙沼地区支所大島出張所に改組され、現在に至っている。1世紀以上にわたるその歴史は、千葉勝衛氏らの努力で『大島漁業組合百年史』（2006年刊行）としてまとめられている。同書編纂のさいに使用された明治以来の関係資料は、当時、沿岸の浦の浜にあった漁協事務所2階の専用書架に、きちんと整理、収納されていた。そこに「大島漁業組合資料文庫」と書かれた木製の看板が掛けられたのは、2011年3月11日の東日本大震災の1週間ほど前のことだったという。

日本常民文化研究所と気仙沼大島とのかかわりは古く、その始まりは常民研が財団法人だった時代の1949年にまでさかのぼる。常民研では2011年の4月末に現地を見舞い、同年5月以降、神奈川大学からの支援を受けて、常民研と大学院歴史民俗資料学研究科の合同プロジェクトとして、大島漁業協同組合資料文庫と漁協現用文書の救出と保全を進めてきた。そして、2016年2月には、おおむかい大向の丘の上に収蔵庫「気仙沼大島漁協文庫」を落成するにいたった（ここまでの経緯の詳細は2014～15年度の年報を参照）。その間、宮城県漁業協同組合気仙沼地区支所大島出張所はもとより、千葉勝衛氏、水上忠夫氏をはじめとする地元の個人・諸機関、宮城資料ネットワーク、奈良文化財研究所、三井物産環境基金などから、さまざまなご協力をいただいた。

2018年度の課題は、「気仙沼大島漁協文庫」の収蔵資料の整理を完成し、広く公開できるようにするとともに、散逸と劣化を防ぐ手立てを講じることであった。以下は2018年度の活動概要である。

6月20日の所員会議において、大島漁協文庫にかんする情報共有がはかられ、7月15～17日には数名の所員・職員で現状の視察が行われた。これを受けて、9月19日の所員会議では、漁協文庫資料を公開できるよう整理等の作業を進めることを決定、内田青蔵所長が大川啓・関口博巨（以上、所員）・窪田涼子（職員）に実施計画の策定を指示するとともに、山口悟史氏（客員研究員、東京大学史料編纂所古文書修理室）にも参画を要請した。

こうした経緯を経て、2018年度後半期は、国際常民文化研究機構の共同研究（奨励）「宮城県気仙沼大島における遠洋漁業の歴史の変遷に関する研究」（代表者：千葉勝衛）のフォーラム（2019年2月10日、詳細は大川報告を参照）までに、文庫収蔵資料の整理作業を完了することを目標として、毎月1回3泊4日～2泊3日の出張を重ねてきた（2018年11月2日～5日、11月30日～12月3日、2019年1月11日～15日、2月8～11日、3月23日～25日）。実際の整理作業にあたっては、山口氏と若くて優秀な歴史民俗資料学研究科博士課程の院生精鋭部隊が大きな推進力となってくれた。精

鋭部隊を構成したのは、石井和帆、小野寺佑紀、中村慧、鍋田尚子、東出紘明、平田茉莉子、山室陸の諸氏である。ことに地元大島出身の小野寺氏には、作業チームと地元をつなぐパイプ役として、またシンポジウムの研究発表者として、八面六臂の大活躍をした。シンポジウム期間中は、資料整理の最終段階を公開した。

文庫での作業内容は以下の通りである。

(1) 作業手順

スリットの確認→ラベル貼付→目録修正

- ①作業は「中分類」単位で終了させていく。千葉氏作成の分類表による。
- ②資料にはレスキューのさいのスリット（短冊）が入っているので、スリットを仮目録と照合、確認する。
- ③正確に分類されているか、棚の配架位置は間違いないかなどを確認したうえで、ラベルを貼付する。
- ④分類や配架位置などが誤っている場合は、正しい分類番号を付し、目録データを修正したうえで、配架位置を変更する。
- ⑤スリットが脱落している場合は、目録データと照合し、正確な分類を確定したうえで上記の作業を行う。
- ⑥未整理・未分類の資料が出てきた場合は、分類表に基づいて分類番号を与え、目録を作成したうえでデータに追加し、上記の作業を行う。

(2) ラベル

3段の図書ラベルサイズとし、以下の内容とする。

- ・貼り付け位置は、原則として表紙右下とする。
- ・ラベル用紙：特種東海製紙株式会社 [ピュアガード 70 ホワイト 70 g/m²]
- ・糊：水溶性セルロース（信越化学工業 SM-400）溶液（濃度など調整して使用）

(3) データ修正

- ①目録データ（Excel）を現物と照合（タイトル・分類）し、場合によって修正する。
- ②ラベルを貼付し確定した「中分類通番号」を新たに入力する。

(4) 修復関係

- ①ホチキス・クリップ等の除去。
- ②必要に応じて紙縫りで綴じたり、中性紙製の厚紙ホルダーに収納する。

※カビ資料などは来年度以降の課題とする。

上記の作業は、2019年2月の出張までにはほぼ完了することができた（ただし、個人情報を含む資料は、当面非公開として別置き、今回の作業に含まなかった）。これによって、「大島漁協文庫」の公開準備はほぼ整ったといえよう。

今後、「大島漁協文庫」が、漁協の皆様はもとより、地域の方々のさまざまな活動、学校の授業やその他の教育活動、あるいは各種研究などに活用されることを期待したい。



写真1 完成した気仙沼大島漁協文庫（2016年2月）



写真2 資料の修復作業（2019年1月）

震災救出資料を活用した共同研究フォーラムと 大島漁協文庫見学会

大川 啓

2018年度の主な活動として、震災救出資料を活用した共同研究フォーラム、および大島漁協文庫見学会の開催があげられる。

第5回共同研究フォーラム 神奈川大学国際常民文化研究機構・共同研究（奨励）成果発表会 「気仙沼大島における遠洋漁業の歴史——漁船員たちの航路をたどって——」



写真3 ディスカッション（2019年2月）



写真4 会場風景（2019年2月）



写真5 発表者・関係者集合写真

2019年2月10日午後、気仙沼大島の大島公民館において、国際常民文化研究機構の共同研究（奨励）「宮城県気仙沼大島における遠洋漁業の歴史の変遷に関する研究——震災救出資料を中心として——」の成果発表会を開催した。泉水英計（機構運営副委員長・所員）が司会を務め、内田青蔵（機構運営委員長・所長）の開会挨拶、大川啓（共同研究者・所員）による資料救出活動の沿革紹介の後、千葉勝衛氏（共同研究代表）と小野寺佑紀氏（業務協力者・歴史民俗資料学研究科博士後期課程）の研究報告が行われた。続いて、崎浜美和会による「大漁唄い上げ」が上演された。その後、共同研究者の小山由紀子氏、菊田榮四郎氏、水上忠夫氏のコメント、川島秀一氏（東北大学災害科学国際研究所・客員研究員）、蝦名裕一氏（東北大学災害科学国際研究所）の総括コメントがあり、続いて共同研究者一同に、山内繁氏（気仙沼市文化財保護審議委員会委員長）、堺健氏（気仙沼・大島みらい創り協議会）を加えたメンバーでのディスカッションが行われた。最後に、前田禎彦（機構運営委員・所員）より閉会の挨拶があった。

会場は、準備した80席が満席となり、立ち見の方も出る盛況となった。参加ないし運営にあたった関係者は、所員の小熊誠、佐野賢治、高城玲、安室知、昆政明、後田多敦、関口博巨、須崎文代、客員研究員の重村力、全京秀、森武磨、山口悟史、職員の越智信也、窪田涼子、村川浩幸、歴史民俗資料学研究科博士後期課程の石井和帆、中村慧、東出紘明、平田茉莉子、山室陸である。

本フォーラムをご後援いただいた気仙沼市教育

委員会、宮城県漁業協同組合、大島海友会、大島地区振興協議会、ご協力をいただいた大島漁協文庫の会、気仙沼・大島みらい創り協議会、崎浜美和会の皆さまに心より感謝の意を表したい。

大島漁協文庫見学会

2019年2月10、11日の両日、午前9時から12時まで、大島漁協文庫の見学会を開催した。見学会では、救出資料とその保管状況、実際の整理作業の様子を公開した。一般の見学者は、10名程だったが、時間をかけて見学される方が多く、両日の文庫内は満員状態となった。関係者では、震災直後の資料救出活動以来の大島来訪となった方も少なくなく、漁協文庫に整然と収められた救出資料に感慨を覚えたという方が複数おられた。

見学会および整備作業を担当したのは、所員の関口博巨、客員研究員の山口悟史、職員の窪田涼子、歴史民俗資料学研究科博士後期課程の石井和帆、中村慧、東出紘明、平田茉莉子、山室陸である。

以上のように、共同研究フォーラムと漁協文庫見学会は、地元の大島や気仙沼から多数の参加者を得て、救出資料の保全活動とその活用の現状を知っていただく絶好の機会となった。救出資料の保全・活用を永続的に支えていくには、漁協文庫の持続的な運営体制とともに、大島内外の幅広い支援・支持が必要となる。今後も、救出資料の整備作業の進捗に応じて、見学会のような機会をもうけ、大島内外の関心を継続的に喚起していくことが望ましい。



写真6 大島漁協文庫の内観



写真7 整理・分類された漁協資料（旧役場文書）

■ 2018年度の活動

- 気仙沼大島漁協文庫の資料整理 2018年7月15日～17日 気仙沼大島漁協文庫 内田青蔵・小熊誠・関口博巨・重村力・山口悟史・窪田涼子、小野寺佑紀（院生）
- 気仙沼大島漁協文庫の資料整理 2018年11月2日～5日 気仙沼大島漁協文庫 大川啓・関口博巨・山口悟史・窪田涼子、石井和帆・小野寺佑紀・中村慧・東出紘明・平田茉莉子・山室陸（院生）
- 気仙沼大島漁協文庫の資料整理 2018年11月30日～12月3日 気仙沼大島漁協文庫 関口博巨・山口悟史・窪田涼子、石井和帆・小野寺佑紀・中村慧・鍋田尚子・東出紘明・平田茉莉子・山室陸（院生）
- 気仙沼大島漁協文庫の資料整理・文庫公開 2019年1月11日～15日 気仙沼大島漁協文庫 大川啓・関口博巨・前田禎彦・山口悟史・窪田涼子、石井和帆・中村慧・鍋田尚子・東出紘明・平田茉莉子・山室陸（院生）
- 国際常民文化研究機構 第5回共同研究フォーラムおよび気仙沼大島漁協文庫見学会 2019年2月9～11日 気仙沼大島漁協文庫 小熊誠・昆政明・佐野賢治・後田多敦・須崎文代・高城玲・安室知・重村力・全京秀・森武磨・村川浩幸・越智信也
- 気仙沼大島漁協文庫の資料整理 2019年2月8日～11日 気仙沼大島漁協文庫 関口博巨・山口悟史・窪田涼子、石井和帆・中村慧・東出紘明・平田茉莉子・山室陸（院生）
- 気仙沼大島漁協文庫の資料整理 2019年3月23日～25日 気仙沼大島漁協文庫 関口博巨・山口悟史・窪田涼子、石井和帆・小野寺佑紀・中村慧・平田茉莉子・山室陸（院生）